

調査レポート



Report on research

農業景況DIは 大幅上昇でプラス値に 食品産業の景況DIは 2年ぶりのマイナス値

—農業景況調査・食品産業動向調査

(いずれも2025年1月調査)—

農業における各種景況DIと、食品産業における各種景況DIを紹介します。

2024年の農業全体の景況感を示す農業景況DIは、10・5と大幅に上昇し、プラス値となりました。

25年の景況DIの見通しは7・6とやや低下するものの、引き続きプラス値となる見込みです。

一方、24年下半期の食品産業の景況DIは▲1・8となりました。

前回調査の24年上半期から5・0ポイント低下し、22年下半期以来のマイナス値となりました。

この要因の一つには、原材料高騰で販売価格が上昇する一方、十分な価格転嫁が進まないことが考えられます。また、値上げにより販売数量が減少していることも要因と考えられます。

農業の景況について

多くの業種でDIが上昇

2024年の農業全体の景況感を示す農業景況DIは、10・5となりました。23年の通年実績でありました。

る▲26・9から37・4ポイント上昇し、プラス値となりました表。業種別では、多くの業種で景況

DIが上昇しました。特に北海道の稲作が114・1ポイント上昇して64・8、都府県の稲作が72・9ポイント上昇して50・8と、大幅に改善しました。この要因としては24年産米の価格が高騰したことが考えられます。

その他にも、農畜産物価格の上昇を背景に景況DIがプラス値となった業種がみられ、養豚が36・4ポイント上昇し4・7、露地野菜が24・8ポイント上昇し7・3、施設野菜が16・8ポイント上昇し5・1、キノコが12・5ポイント上昇し4・8となりました。

一方、景況DIは改善したもののマイナス値が継続した業種もみられました。畑作が20・2ポイント上昇し▲29・0、茶は28・2ポイント上昇し▲3・0、北海道の酪農は28・6ポイント上昇し▲28・2、都府県の酪農は16・0ポイント上昇し▲29・7、肉用牛は14・4ポイント上昇し▲37・7となりました。

景況DIが低下した業種では、採卵鶏が106・3ポイント低下し▲41・2となりました。これは23年に発生した高病原性鳥インフルエンザの影響などで高騰した卵価が、24年に入り落ち着いてきた反動減と考えられます。

その他、施設花きでは17・0ポ

イント低下し▲36・5、ブロイラーが14・0ポイント低下し▲28・7となりました。また、果樹の景況DIは1・4ポイント低下し▲4・1とほぼ横ばいで推移しました。

販売単価DIについてみると、農業全体では36・6ポイント上昇し、47・2とプラス幅が拡大しました。業種別では、北海道の稲作が69・5ポイント上昇し85・9、都府県の稲作が66・0ポイント上昇し89・1と、特に大幅なプラス値となっています。

その他、大幅に上昇した業種としては、露地野菜が32・8ポイント上昇し41・5、施設野菜が43・2ポイント上昇し51・5、養豚が43・5ポイント上昇し62・7となりました。米価だけではなく、野菜や豚肉など多くの品目で、販売単価が上昇している様子がうかがえます。

また生産コストDIは5・2ポイント上昇し▲79・4となりました。業種別でみても、すべての業種においてDIが▲50以下の大幅なマイナス値となっています。要因としては、飼料価格などの高騰が一段落したもの、平年と比較すると引き続き高い水準にあることが挙げられます。農業全体としてコスト高の状況が続いている様子がうかがえます。

◆ 2024年農業景況DIは5年ぶりにプラス値に転換

表 農業の各種DI値

		景況DI			販売単価DI		収支DI		資金繰りDI		生産コストDI		雇用状況DI		設備投資予定 ありの比率(%)	
業 種 / 時 点		2023年 実績	24年 実績	25年通年 見通し	23年 実績	24年 実績	23年 実績	24年 実績	23年 実績	24年 実績	23年 実績	24年 実績	23年 実績	24年 実績	24年	25年
農業全体		▲ 26.9	10.5	7.6	10.6	47.2	▲ 32.1	7.5	▲ 26.4	▲ 0.7	▲ 84.6	▲ 79.4	▲ 37.6	▲ 37.4	48.9	52.0
耕 種	稲作(北海道)	▲ 49.3	64.8	15.9	16.4	85.9	▲ 51.0	66.7	▲ 38.4	41.5	▲ 90.6	▲ 79.0	▲ 39.7	▲ 38.5	46.8	57.5
	稲作(都府県)	▲ 22.1	50.8	31.6	23.1	89.1	▲ 29.1	50.1	▲ 24.9	34.9	▲ 80.3	▲ 72.9	▲ 37.5	▲ 41.8	54.4	64.6
	畑作	▲ 49.2	▲ 29.0	▲ 23.4	▲ 22.8	▲ 1.1	▲ 54.3	▲ 34.0	▲ 37.5	▲ 31.6	▲ 90.5	▲ 85.9	▲ 40.9	▲ 38.9	51.7	51.4
	露地野菜	▲ 17.5	7.3	5.1	8.7	41.5	▲ 24.9	0.2	▲ 22.8	▲ 10.3	▲ 85.9	▲ 87.0	▲ 35.5	▲ 35.9	52.6	50.9
	施設野菜	▲ 11.7	5.1	7.3	8.3	51.5	▲ 17.4	▲ 3.4	▲ 18.9	▲ 10.3	▲ 85.2	▲ 86.9	▲ 33.4	▲ 28.6	46.6	47.2
	茶	▲ 31.2	▲ 3.0	6.0	▲ 23.0	6.9	▲ 40.7	▲ 2.9	▲ 23.9	▲ 11.8	▲ 85.4	▲ 77.2	▲ 36.1	▲ 36.4	40.6	46.0
	果樹	▲ 2.7	▲ 4.1	19.2	30.1	55.6	▲ 13.8	▲ 9.1	▲ 10.8	▲ 14.7	▲ 81.5	▲ 85.8	▲ 43.0	▲ 41.4	51.5	47.2
	施設花き	▲ 19.5	▲ 36.5	▲ 5.0	20.7	35.4	▲ 25.2	▲ 41.4	▲ 25.3	▲ 35.4	▲ 91.2	▲ 95.6	▲ 28.9	▲ 22.2	46.6	44.9
	キノコ	▲ 7.7	4.8	1.6	38.4	60.3	▲ 3.8	3.2	▲ 20.5	▲ 1.6	▲ 87.2	▲ 96.8	▲ 45.5	▲ 42.8	51.9	55.6
畜 産	酪農(北海道)	▲ 56.8	▲ 28.2	▲ 16.9	12.4	16.6	▲ 58.6	▲ 33.8	▲ 48.1	▲ 40.1	▲ 88.5	▲ 85.4	▲ 38.5	▲ 42.9	34.5	37.5
	酪農(都府県)	▲ 45.7	▲ 29.7	▲ 15.5	40.3	14.2	▲ 45.2	▲ 32.4	▲ 42.2	▲ 34.8	▲ 75.2	▲ 67.5	▲ 34.3	▲ 31.7	41.8	42.9
	肉用牛	▲ 52.1	▲ 37.7	▲ 9.5	▲ 52.9	▲ 33.1	▲ 55.7	▲ 40.7	▲ 43.9	▲ 37.4	▲ 87.3	▲ 75.6	▲ 37.4	▲ 34.3	37.9	33.0
	養豚	▲ 31.7	4.7	1.9	19.2	62.7	▲ 30.7	14.7	▲ 28.5	2.3	▲ 79.2	▲ 54.3	▲ 34.6	▲ 32.3	56.9	56.7
	採卵鶏	65.1	▲ 41.2	8.4	83.6	▲ 7.6	58.5	▲ 46.3	59.3	▲ 25.3	▲ 83.7	▲ 74.8	▲ 42.3	▲ 43.2	48.4	41.5
	ブロイラー	▲ 14.7	▲ 28.7	▲ 26.4	10.5	▲ 2.8	▲ 22.4	▲ 30.1	▲ 15.8	▲ 30.2	▲ 77.8	▲ 74.0	▲ 32.3	▲ 28.7	38.9	45.8

【DIについて】「①よくなった ②変わらない ③悪くなった」から一つ選ぶ形式となっており、「よくなった」の構成比から「悪くなった」の構成比を差し引いたもの。
ただし雇用状況DIは「①過剰である ②適正である ③不足である」から一つ選ぶ形式となっており、「過剰である」の構成比から「不足である」の構成比を差し引いたもの。

通年でもプラス値継続の見通し

2025年通年見通しの農業景況DIは、7・6となりました。24年実績の10・5から2・9ポイント低下していますが、引き続きプラス値となる見通しです。

業種別にみると、北海道の稲作が48・9ポイント低下し15・9、都府県の稲作が19・2ポイント低下して31・6と大きく低下していますが、プラス値を維持する見込みです。米価上昇により景況感が改善したものの、今後の見通しについては、現状よりもやや慎重な見方をしている経営者が多いとうかがえます。

その他、景況DIが低下する見込みの業種としては、露地野菜が2・2ポイント低下し5・1、キノコが3・2ポイント低下し1・6、養豚が2・8ポイント低下し1・9と小幅に低下するものの、プラス値を維持する見込みとなりました。

一方で、果樹は23・3ポイント上昇し19・2、茶は9・0ポイント上昇し6・0、採卵鶏は49・6ポイント上昇し8・4とプラス値に転じる予想です。また、施設野菜は2・2ポイント上昇し7・3とプラス幅が拡大する見通しです。

その他、景況DIが上昇する見

通しの業種としては、北海道の酪農が11・3ポイント上昇し▲16・9、都府県の酪農が14・2ポイント上昇し▲15・5、施設花きが31・5ポイント上昇し▲5・0、肉用牛が28・2ポイント上昇し▲9・5、ブロイラーが2・3ポイント上昇し▲26・4、畑作が5・6ポイント上昇し▲23・4と、改善するものの、マイナス値が継続する見通しとなりました。

投資マインドはやや上昇

2025年の設備投資予定について「設備投資予定あり」と回答した割合は52・0%となりました。24年の48・9%からは3・1ポイント上昇しています。

業種別でみると、北海道の稲作が10・7ポイント上昇し57・5、都府県の稲作が10・2ポイント上昇し64・6、キノコが3・7ポイント上昇し55・6、養豚がほぼ横ばいで推移し56・7ポイントと、特に高い値となりました。これらの業種は24年実績の景況DIも高く、景況感の回復が設備投資への積極的な姿勢につながっている傾向がうかがえます。

また、設備投資予定の回答割合が上昇している他の業種としては、茶が5・4ポイント上昇し46・0、

ブローラーが6・9ポイント上昇し45・8、北海道の酪農が3・0ポイント上昇し37・5となりました。一方で、割合が低下した業種は、果樹が4・3ポイント低下し47・2、肉用牛が4・9ポイント低下し33・0、採卵鶏が6・9ポイント低下し41・5となりました。

また、25年に「設備投資予定あり」と回答した者に対して、当年の設備投資額の増減見通しを聞いたところ、「昨年に比べ増加する」との回答が49・4%と約半数を占めました。「同程度」の37・0%と合わせると86・4%と、調査時点においては設備投資に対する姿勢が24年よりも上向いている様子がうかがえます。

食品産業の景況について

小売業、飲食業は前回から大幅低下

2024年下半期の食品産業の景況感を示す景況DIは、24年上半期から5・0ポイント低下し▲1・8と、22年下半期以来のマイナス値となりました。

業種別では製造業、小売業、飲食業が前回から低下しました。特に小売業は19・2ポイント、飲食業は26・9ポイントの大幅な低下となり、小売業は24年上半期以来のマイナス値となりました。

25年上半期の見通しは、24年下半期からさらに0・4ポイント低下し▲2・2と引き続きマイナス値となりました。

業種別でみると、卸売業と飲食業が24年下半期から低下し、製造

業と小売業はマイナス値のまま横ばい推移となりました。

仕入価格DIは依然高止まり

仕入価格DIは、24年上半期から4・6ポイント上昇し84・3となりました。依然としてコスト高が継続している状況がうかがえます。販売価格DIも、3・3ポイント上昇し59・0と、仕入価格DIには及ばないものの高い水準となっています。一方で、販売数量DIは2・6ポイント低下し▲11・7となり、24年上半期調査に続きマイナス値となりました。

これは、仕入価格の高騰を受けて、販売価格への転嫁に取り組み

一方、値上げにより販売量（消費者の購入量）が減少していることが背景にあると考えられます。

また、25年上半期の見通しについて、仕入価格DIは8・0ポイント低下し76・3、販売価格DIは8・6ポイント低下し50・4、販売数量DIは6・8ポイント上昇し▲4・9となりました。

24年下半期の雇用判断DIは、24年上半期から2・5ポイント上昇し38・2となっており、人手不足の状況が継続していることがうかがえます。なお、この場合の雇用判断DIは、「不足である」と回答した割合から「過剰である」と回答した割合を差し引いた数値です。

また、25年上半期の見通しは24年下半期から横ばい推移し、38・5となりました。

今回ご紹介した内容を含む調査結果に関する資料は、日本公庫ホームページに掲載しています。「日本公庫 農業景況調査」または「日本公庫 食品産業動向調査」で検索してください。

（情報企画部）

高田 圭介・本松 空良

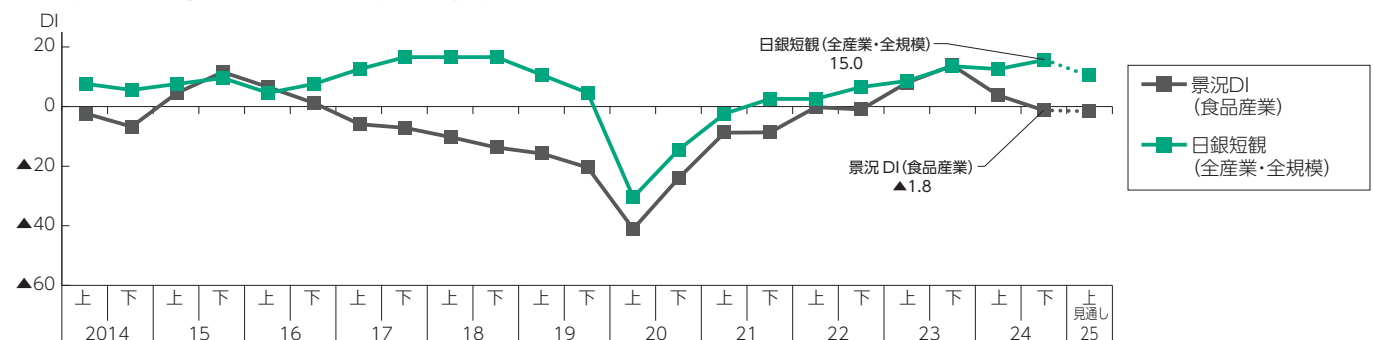
※本文中にある▲は、マイナスを示します。

食品産業に関する調査



◆ 食品産業の景況はマイナス値に

図 食品産業の景況DIおよび日銀短観の推移



【DIについて】食品産業における景況DIは、売上高DI、経常利益DI、資金繰りDIを単純平均したものの。